

曇天

西部中・2

清水 麻海

曇天に

妄想を連れて
屋台に行く
夕焼け色に
染まる空を見ても
感動もなく
何も得ずに終わる

曇天に

妄想を連れて
ただ一人歩く
友をさがしに灰色の砂を歩くも
小石を足で蹴り歩くも
木の下で枝を拾うも
何も得ずに終わる

芝に座り

友と並び

花火を見る

それができたらよいが
夜も来ず

友も来ず

ただため息のみ

曇天に溶ける

今日も音のみ聞くと思い

光を見ることもなく

ただサンダルに入った砂を除く

昔の私は

窓から終わるまで見ていた

あの頃が懐かしく思い出される

物足りなさに買ったかき氷

ほのかに苦し